様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　３ 年　６ 月 ３０ 日現在

機関番号：３２６９９
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2016～2020
課題番号：１６Ｋ０３７９５

研究課題名（和文）製糸金融における倉庫の役割～諏訪倉庫からみる第十九銀行の繭担保融資

研究課題名（英文）Role of Warehouses in Sericulture Finance: The Suwa Warehouse and secured lending using silk cocoons as collateral

研究代表者
金城　亜紀（Kinjo, Aki）

学習院女子大学・国際文化交流学部・教授

研究者番号：００６３６９４６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、製糸産業の拠点であった長野県諏訪地方において、大正から昭和初期に倉庫会社と銀行がどのように協業して製糸家の繭購入資金を供給したかを、倉庫会社を軸に明らかすることを目的とした。具体的には、同地方の代表的な地方銀行である第十九銀行と密接な関係にあった諏訪倉庫株式会社（以下「諏訪倉庫」）が有する史料の収集と分析を中心に進めた。その結果、日本の生糸輸出が最盛期を迎えた1910年台から20年台における世界最大規模製糸業の産業集積地であった諏訪地方における製糸金融の概要について理解を深めた。こうして本研究は、日本産業金融史で空白地帯となっていた重要な領域の解明を進めることに貢献する成果を遂げた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究の学術的意義は、これまで銀行を中心に進められていた産業金融史並びに地方金融史において、倉庫が動産の担保化を実現するにあたり重要な役割を果たしたことを、生糸輸出の最盛期の諏訪地方を対象に実証的に明らかにしたことである。その結果、日本における近代金融の発展を考察するにあたり見落とされていた倉庫金融並びに動産担保融資が輸出による正貨蓄積に大きな役割を果たし、日本銀行の指定倉庫制度を通して地方金融が中央銀行信用と接続していたことを検証した。本研究は、今後の地域金融のあり方を考えるにあたり銀行がかつての倉庫など他の業種と密接に連携することの意義について経営史の視座から示唆を与える社会的意義がある。

研究成果の概要（英文）：This study provided new insight in the development of Japanese industrial finance by empirically analyzing the sericulture finance in the Suwa district of Nagano prefecture which was one of the world's leading industrial cluster of sericulture during 1910s to 1920s. At that time, raw silk was the dominant export item in Japan, consisting approximately 30-40% of total exports. Previous studies, however, had not sufficiently investigated the financing of such industry in this period. This study provided evidence that not only banks but warehouses played a major role in financing the raw silk manufacturers in Suwa. Specifically, warehouses enabled collateralizing silk cocoons by issuing warehouse receipts, thus enabling banks to provide secured lending. This research contributed in the study of Japanese industrial finance by demonstrating that warehouses also played a significant role in financing one of the most important industries prior to the Second World War.

研究分野：金融史

キーワード：担保　製糸　製糸金融　動産　倉庫　倉庫証券　倉庫金融

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

近代日本蚕糸業史は、産業史の中で研究蓄積の多い分野であり、山口和雄(1966)、石井寛治(1972)をはじめとする多くの優れた先行研究が存在する。製糸業にどのように資金が供給されたかを考察する製糸金融に関する先行研究の焦点は、主として製糸業の勃興期である明治時代における横浜の生糸売込 問屋(以下、「売込問屋」)に置かれ、地方銀 行は売込問屋に従属又は補完する存在として認識され、その評価も高くなかった。

しかし、大正から昭和初期における、製糸業の興隆期の製糸家に対する融資額は、地方 銀行が売込問屋を凌駕している(昭和 5 年「製 糸金融調査成績」、農林省蚕糸局)。この点に関し、伊藤正直(1975)などの先行研究は、第 十九銀行に代表される地方銀行の躍進の事実は指摘するものの、売込問屋に遅行していた地方銀行がなぜ、どのような施策で製糸金融を伸長させたかを具体的な史実に基づき 充分に解明したものは非常に少ない。

その理由として、(1)先行研究の主たる関心が、明治期における売込問屋の生糸売却資金の供給とその調達方法にあったこと、 (2)製糸家の繭購入資金の調達方法が地域 により異なりこれまで諏訪地方が必ずしも 注目されていなかったこと、(3)諏訪地方における繭担保融資に用いられた倉庫に対する関心が低かったこと、等が考えられる。

本研究は、製糸産業の一大拠点であった諏訪地方を代表する第十九銀行と密接な関係にあった諏訪倉庫を研究対象の中心に据えることにより、製糸業の産業金融史で事実上の空白地帯となっている重要な領域の解明を目指した。

２．研究の目的

本研究は、製糸産業の拠点であった長野県諏訪地方において、大正から昭和初期に倉庫 会社と銀行がどのように協業して製糸家の繭購入資金を供給したかを、倉庫会社を軸に明らかすることを目的とした。具体的な研究 項目は、1)経営的側面:担保繭の機動的な出し入れを可能にする一部出庫制度の解明、2)金融的側面:担保となった繭の残高毎に融資の極度額が変動する仕組みの解明、3)法的側面:倉庫証券を用いることにより動産を担保とすることに成功したスキームの解明を 3 つの柱とし、研究課題に多面的に接近した。

３．研究の方法

倉庫を用いた繭担保融資を正確に理解するためには、これまでの研究成果を基礎としつつ、研究対象を多面的に接近することが有効である。そこで当研究は、経営、金融、 法律の 3 点からアプローチし、有機的な関連 性を実証的に検証した。研究に客観性を持たせるため、国内外の学会及び研究会等で行い継続的に批判を受け必要に応じて軌道修正した。

４．研究成果

(1)本研究の主たる成果のうち、当初の計画で想定されていたものは下記の３点に集約できる。

① 経営的側面

繭を担保化することに重要な役割を果たした預かり物一時出庫制度について、(銀行向け)「入庫通知書」、(製糸家向け)「貨物保管証」及び諏訪倉庫の貨物保管通帳を精査することにより解明した。

② 金融的側面

第十九銀行が担保となった繭の残高に応じて融資金額を機動的に変動する、今日のいわゆる ABL と類似する仕組みを実施した(金城、2016)ことを明らかにした

③ 法的側面

成立間もない新商法(1899 年制定)に基づき、倉庫(倉荷)証券をどのように用いて動産である繭を担保としたかを契約書並びに特約を検証することにより明らかにした。これら 3 つの柱を総合的に考察することにより、当該倉庫を用いた繭担保融資が同地域の製糸産業が発展することに大きく貢献したことを検証した。

(2)上記に加え、当初予期していなかった成果が得られた。

① 江戸と明治の接続

諏訪における倉庫を用いた動産担保融資を研究した結果、かかる融資手法が実は近代金融制度が日本で確立する前に中世以来の金融の伝統を継承している可能性が高いことが分かった。たとえば、我が国の近代銀行制度確立に大きく寄与した渋沢栄一は幕末・明治初期の静岡にて商法会所という倉庫金融を自ら行った経験を有する。その渋沢が 1877 年に日本初の銀行業界団体とされる択善会において「発券倉庫制度」の確立を提唱し、銀行自らが倉庫経営に従事することを主張したことは興味深い。この事実は、国立銀行条例で定義された「銀行」が倉庫業をいかに重要視していたかを物語る。

② 日本銀行信用との接続

当該研究を進める過程で、日本銀行が倉庫を用いた動産の担保化、とりわけ繭担保融資にいかに注力していたかが明らかになった。具体的には、日銀が認定する指定倉庫が発行する倉庫証券を適格担保とし、同行が融資する際の担保として認めた。諏訪倉庫は、日銀松本支店の指定倉庫の保管能力の実に６割強を占め他の倉庫を凌駕していた。中央銀行として輸出により正貨を蓄積することは最重要課題であった。当時における最大の輸出品目は生糸であり、長野県諏訪地方が日本最大の製糸業の産業集積地として成長した要因には、このような倉庫を通した日本銀行の支援があったことは興味深い。事実、1920 年のいわゆる戦後恐慌において第十九銀行の資金調達が困難になった際に、日本銀行は諏訪倉庫にあった繭を担保に融資を行なっている事実が史料により確認された。

③ 倉庫金融史、倉庫史の可能性

これまでの金融史は倉庫に注目することがほとんどなかった。しかし、本研究は倉庫が金融の発展に大きな影響を与えたことを明らかにした。少なくとも 1920 年代までは銀行と倉庫業者は密接な関係にあり、この事実を無視して金融史を正しく正確に理解することは難しい。倉庫の歴史的研究が必ずしも活発でない状況は金融史に限らない。経営史においても倉庫史は等閑されてきた。逆にいえば、倉庫を通して経営史と金融史を紐解くことは、本研究が実証したように新たな発見につながる可能性を秘めている。

(3) 得られた成果の国内外における位置づけとインパクト

本研究の特徴は、担保をひたすら追求したことにある。これまでとは異なる視点で研究を進めた結果、期待以上の成果を得ることができた。幸いにもこのアプローチは国内外の学会で注目されるに至った。Business History Conference や European Business History Association の報告でも手応えがあった。また、国内では地方金融史研究会、経営史学会などで長時間の報告やパネルを実施し、多くの反響を得た。担保の歴史、「担保史」を研究するためには異なる専門を有するチームが必要である。そのため、ローマ法制史、日本法制史、フランス中央銀行史、経営史、そして担保法制に詳しい弁護士などと「担保史研究会」を立ち上げた。担保は「経営と法律の交差点」に位置し、既存の学術領域では十分に対応することが難しい。そこで、研究代表者が中心になり 2020 年に「法と経営学会」を設立し研究基盤を整備した。

(4) 今後の展望

まずは現在進行中の科研費プロジェクト 2 件、すなわち(1)「製糸金融における倉庫の役割」上田倉庫からみる第十九銀行による繭担保融資の誕生（基盤研究 C、研究代表者：金城亜紀）並びに(2)「20 世紀前半期日本における生業・生活金融の地域的展開に関する総合的研究（基盤研究 B、研究代表者：中西聡、金城は研究分担者）を進める。同時に、これまでの研究成果を単著にまとめるとともに、先述した担保史研究会のメンバーと書籍を刊行することが目下の目標である。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計5件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 Aki Kinjo	４．巻 21
２．論文標題 Merging Law and Business History: Case Study in the Development of Collateral in Japan at the Turn of the 20th Century 金城亜紀	５．発行年 2019年
３．雑誌名 学習院女子大学紀要	６．最初と最後の頁 15-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Aki Kinjo	４．巻 0
２．論文標題 Japanese Management	５．発行年 2019年
３．雑誌名 Kaleidoscopic Views of Japan	６．最初と最後の頁 30-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Aki Kinjo	４．巻 21
２．論文標題 Merging Law and Business History: Case Study in the Development of Collateral in Japan at the Turn of the 20th Century	５．発行年 2019年
３．雑誌名 Bulletin of Gakushuin Women's College	６．最初と最後の頁 15 30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 金城亜紀	４．巻 1
２．論文標題 1920年の戦後恐慌にみる第十九銀行と日本銀行への接続	５．発行年 2017年
３．雑誌名 法と経営研究	６．最初と最後の頁 197-220
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Aki Kinjo	４．巻 19
２．論文標題 The Japanese and Italian Silk Industry in the Late Nineteenth to Early Twentieth Centuries: How one ’s Rise Affected the Other	５．発行年 2017年
３．雑誌名 学習院女子大学紀要	６．最初と最後の頁 35-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計8件（うち招待講演　0件／うち国際学会　4件）

１．発表者名 Aki Kinjo
２．発表標題 Creativity in Finance: How it propelled the Japanese silk industry to become No.1 in the world
３．学会等名 European Business History Association 23rd Annual Congress Rotterdam
４．発表年 2019年

１．発表者名 金城亜紀
２．発表標題 諏訪の製糸金融にみる銀行業と倉庫業のアンバンドリング
３．学会等名 進化経済学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Aki Kinjo
２．発表標題 Financing Industrial Development in Early 20th Century Japan: Balancing State Intervention and Market Mechanism
３．学会等名 2018 Business History Conference Meeting（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Aki Kinjo
２．発表標題 Financialization & Financial Crises (Chair)
３．学会等名 第54回経営史学会 International Session（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Aki Kinjo
２．発表標題 Financing Industrial Development in Early 20th Century Japan: Balancing State Intervention and Market Mechanism
３．学会等名 Business History Conference Meeting（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 金城亜紀
２．発表標題 製糸金融における倉庫の役割ー第十九銀行と諏訪倉庫ー
３．学会等名 日本金融学会歴史部会
４．発表年 2017年

１．発表者名 Aki Kinjo
２．発表標題 Innovation of Financial Technology in Early 20th Century Japan: How a Regional Bank Financed the Burgeoning Silk Reeling Industry
３．学会等名 52nd Congress of Business History Japan（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 金城亜紀
２．発表標題 近代倉庫金融と倉庫証券の形成
３．学会等名 経営史学会関西部会6月例会。パネル：「担保史の視座から見る経営と法制度」
４．発表年 2021年

〔図書〕　計3件

１．著者名 Yasuhiro Ishizawa, Keiichi Hatakeyama, Aki Kinjo, Yukiko Ito, Tadashi Uchino, Kuniharu Tokiyasu, Yuka Utsunomiya, Mizuko Ugo, Mikitaro Shobayashi, Toshiyuki Omomo, Mika Koshizuka, Reiko Takahashi	４．発行年 2019年
２．出版社 Gakushuin Women's College	５．総ページ数 158（担当章30-44）
３．書名 Kaleidoscopic Views of Japan	

１．著者名 金城亜紀	４．発行年 2021年
２．出版社 信山社	５．総ページ数 約1500頁中、分担執筆分31頁
３．書名 『国際関係と法の支配』、分担執筆「グローバル化の衝撃と日本における近代金融の成立ー知識の吸収から創造へー」	

１．著者名 Aki Kinjo	４．発行年 2020年
２．出版社 Gakushuin Women's College	５．総ページ数 （第6章担当）
３．書名 Japan Uncovered	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計1件

国際研究集会	開催年
2018 Business History Conference Meeting	2018年～2018年

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関